

# 特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

## 2020(令和2)年度 事業報告書

(2020年6月1日~2021年5月31日)

### 2020年度事業概要

2020年度は、あらゆる場面で新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた一年となった。冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークの事業についても、中止・休止を余儀なくされたものが多い。震災発生後、沿岸部中心に継続してきたプレーカーで巡回する遊び場活動についても、継続できたものは「ひろびろとした環境」のなかでの「東六郷であそぼう！」のみとなった。

その一方、指定管理者として運営する「海岸公園冒険広場」は、デイキャンプ場の休止や一部遊具・道具の利用制限などはあったものの、公園としては毎日開園を続け、「こんな時だからこそ外へ」というニーズを受け止め続けた。また「のびすく若林」についても、休館期間はあったものの、開館期間中は屋外での活動を拡充するなどの工夫に努めた。初めての経験でわからないことだらけなか、誰もが納得する「正解」を見出せない状況のなか、こんな時でも・こんな時だからこそできることを模索し続けた。

そんな2020年度だが、仙台市では新たな子ども子育て事業計画に「遊びの環境の充実」を位置づけ、みどりの基本計画案でも「プレーパークの充実」が記載されるようになるなど、今後の遊び環境づくりにつながる新たな施策の方向が生まれている。それを受け、市受託事業をはじめとして遊び環境についての調査を行なうと共に、引き続きパブリックコメント等を通じた提案も行なった。

なお、2021年3月に東日本大震災発生から10年目となった。海岸公園冒険広場周辺地域でも、アクセス路となる「東部復興道路」はじめハード面の「復興事業」はひと通り終わった形になっているが、人口も大きく減少する中でコミュニティをどう維持するかなど、地域にとっては「これから先こそ重要」という状況がある。そんな中、「六郷東部の原風景」のヒアリングやそれを受けた遊び場活動、また「ひがろく桜プロジェクト」などで地域の思い出をつなぐこと、地域の魅力を伝えることを大切にしながら、引き続き活動に取り組んだ。

## ◎ 事業計画に掲げた「重点的取り組み」の達成度評価について

2020年度事業計画において掲げた6つの重点的取り組みについて、4段階の達成度評価を行なった。定款に沿った事業区分に基づく「1.～9.」の記載内容との対照と合わせ、本表にまとめる。

「重点的取り組み」 項目	主な事業	定款 区分	達成度評価 (◎-○-△-×の4段階)
① 海岸公園冒険広場の着実な運営と、周辺も含めたより積極的な展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者としての海岸公園冒険広場の着実な運営（年間306日、約15万人）</li> <li>沿岸部の他の活動・施設とも連携しての賑わい・交流の創出</li> <li>震災の「記憶」の保存・記録・発信や、経験を活かした事業による防災への貢献</li> <li>冒険広場および周辺地域の魅力を引き出す、生き物調査・みどり再生活動</li> <li>震災を伝えるほか、体験活動等も含めた学校の授業等への協力</li> </ul>	1. 2. 4. 5. 6. 8.	◎ コロナ禍の影響は大きく、計画通りできなかったものも多いが、「屋外を選ぶ」流れも受け、ひろびろと遊ぶ工夫もしながら、想定以上の来園者を受け入れた。また「ひがろく桜プロジェクト」などみどり再生活動でも周辺地域に貢献した。
② 震災被害の大きかった地域を中心に取り組む遊び場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮城野区田子西地区等、移転先地域での遊び場活動（宮城県被災者支援総合交付金事業）</li> <li>六郷地域・岩沼市の現地再建地域等での活動（みやぎ地域復興支援助成金事業）</li> <li>七郷中央公園冒険遊び場等、地域の中の遊び場・居場所の役割を意識した活動</li> <li>上記活動の場を中心とした、サロン等の支援展開（宮城県被災者支援総合交付金事業）</li> </ul>	1. 3. 5. 8.	△ コロナ禍で休止した活動のうち、年度内に再開できたものは限定的となった。ただし、六郷東部地区での活動については、ヒアリングと連携しながら成果をあげることができた。
③ のびすく若林と連携した、乳幼児親子への遊びの大切さの発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>「のびすくプレーパーク」等、ふるさと広場も活用した外遊びの機会の創出</li> <li>「出前のびすく」の継続的な展開と、若林区内各所でのあそび場活動との連携</li> </ul>	8.	◎ 「屋内よりも屋外を」というニーズもあり、月3回実施していた「のびすくプレーパーク」「ふるさと広場をあそぼう」の館外活動を、より日常的に実施していくようになった。
④ 地域住民の主体的取り組みの支援と、その実績の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民発意の遊び場づくり活動の支援</li> <li>冒険あそび場ネット事業から自立して市民運営となった遊び場の支援</li> </ul>	2. 4. 5. 8.	△ コロナ禍でこれまで支援してきた活動はほとんど休止中となっている。一方、新たに始めたい人へのアプローチを始めた。
⑤ 子ども・子育て支援計画の策定も受けた、調査・提言活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども・子育て支援計画の新計画期間の施策動向の確認</li> <li>仙台市が実施する遊び環境調査の調査・研究業務の受託実施</li> <li>みどりの基本計画や総合計画等の策定動向を確認し、必要な提言を行う</li> </ul>	7.	◎ 仙台市から受託し遊びの環境調査の調査・研究業務を実施すると共に、遊びの原風景調査も継続した。みどりの基本計画等のパブリックコメントの機会に意見を提出し、遊び環境の視点強化に貢献した。
⑥ 組織運営基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局体制の強化・人材育成を検討していく</li> <li>中長期ビジョンの検討の継続</li> </ul>	9.	○ 理事より事務局長を選任し、事務局体制の強化に着手した。また、中長期的運営を見据え事業部門のスタッフ体制を見直した。中長期ビジョンの全体的な検討は次年度に向けた課題となっている。

## 1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業

### (1) 事業実施にあたっての、連携組織の構築

#### ① 海岸公園冒険広場運営委員会

地域に根差した公園運営を目指し、地域関係者を委員にした運営委員会を開催した。

- ・東六郷コミュニティ市民委員会
- ・七郷地区町内会連合会
- ・六郷小学校、七郷小学校
- ・仙台市私立幼稚園連合会若林地区
- ・六郷市民センター・児童館
- ・七郷市民センター・児童館
- ・せんだい3.11 メモリアル交流館
- ・仙台市若林消防署六郷分署
- ・仙台市若林区まちづくり推進課
- ・仙台市若林区公園課
- ・仙台市建設局公園課、百年の杜推進課
- ・海岸公園馬術場

#### ② 「宮城県被災者支援総合交付金」事業運営委員会

「宮城県被災者支援総合交付金」事業の一環で立ち上げた連携組織について、本年度も継続、意見交換を行うと共に、連携して事業を実施した。

- ・久保田東町内会
- ・田子西中央町内会
- ・（一社）みやぎ連携復興センター
- ・仙台市社会福祉協議会若林事務所
- ・仙台市若林区まちづくり推進課
- ・仙台市若林区中央市民センター

### (2) その他、他団体とのネットワーク

- \*NPO 法人せんだいファミリーサポート・ネットワークとの乳幼児事業における連携
- \*NPO 法人にじいろクレヨンとの田子西地区の復興支援事業における連携
- \*海岸公園各地区指定管理者による「海岸公園運営協議会」（仙台市公園緑地協会事務局）
- \*ふるさとと杜再生プロジェクト（仙台市百年の杜推進課事務局）委員
- \*宮城県子ども・若者支援会議（チャイルドラインみやぎ事務局）参加
- \*被災地子ども・子育て支援者サポート会議（チャイルドラインみやぎ事務局）参加
- \*仙台東部エリア交流施設連絡協議会（荒井タウンマネジメント事務局）参加
- \*わたしのふるさとプロジェクト（六郷市民センター事務局）参加
- \*日本冒険遊び場づくり協会 地域運営委員

以上の継続的な取り組みの他、事業8.の各事業実施にあたり、地域団体、NPO、児童館、市民センター、小学校等、多くの団体と連携を行なった。

## 2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業

### (1) 宮城県内外の冒険遊び場活動についての情報収集・発信

理事会を中心とした従来からの仙台市周辺の冒険遊び場活動についての情報交換に加え、他団体とのネットワーク等を通じて、被災地域を中心にひろがりを見せる県内外の遊び場づくり活動の情報を収集した。本年度は、日本冒険遊び場づくり協会による「冒険あそび場活動実態調査」にも協力した。

収集した冒険遊び場情報は、海岸公園冒険広場でも来園者に紹介している。

### (2) ホームページ等での発信

フェイスブックページやブログ、インスタグラムとも連携させながら情報発信を行なっている。本年度は、再開3年目になる海岸公園冒険広場のホームページを全面リニューアルした。

### (3) 「冒険あそび場ネットだより2019」の発行

2020年7月、前年度の活動をとりまとめ発行した。

#### (4) 取材・報道等への協力

事業8. を中心に、新聞や情報誌等のメディアの取材に協力した。(計 20 件)

- ・新聞 9/27 河北新報「TOUHOKUデザイン：海岸公園冒険広場デイキャンプ場 広がる未来 同心円の丘」他 4 件
- ・テレビ 10/24 東北放送「サタデーウォッチン」芋煮会スポット中継 他 4 件
- ・雑誌・広報誌等 『地域支え合い情報』8 月末号『外遊びの魅力と子どもの育ちを発信』他 6 件
- ・Web 仙台市東日本大震災 10 年特設サイト「つなぐ おもい つながる」キーパーソンインタビュー  
「未来につながる本当の『遊び場』を取り戻したい。」
- ・その他 仙台市市政だより若林区版 11 月号「若林の点描」(若林区中央市民センター取材)  
石巻南浜津波復興祈念公園「みやぎ東日本大震災津波伝承館」内展示「ともにつくる復興」

### 3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業

#### (1) 若林区六郷東部地域における、「遊びの原風景」調査

若林区六郷東部地域において、遊び場活動とも並行しながら、地域の高齢者等から子ども時代の地域における遊び経験の聞き取りを継続した。

前年度に引き続き、「かつてこの地域で子どもたちが遊んでいたことの中から、今でもできることを探してみよう」と、「東六郷で遊ぼう！」(事業8. (2)) での実践にもつなげた。

また、それらの調査成果や遊び場活動の実践について、『東六郷の原風景』という冊子にまとめ、かつての豊かな遊び経験の話の中には、「実は今でもできること」「できる環境をつくれればよいこと」が数多くあることを見出し、示すことができた。

#### (2) 「仙台市遊びの環境に関する調査・研究業務」受託

仙台市の「遊びの環境の充実」施策の最初の取組みとして実施される調査・研究業務を、NPO 法人都市デザインワークスと共同で受託・実施した。「まずはハード・ソフト両面から全体像を押さえる」という趣旨の基礎的な調査で、遊びは子どもの自然な欲求に基づく自発的な行為と確認しつつ、発達段階と利用頻度を軸に遊びの環境を整理した。仙台市は、他都市との比較でみると公園・児童館等の施設数は一定の水準にあるものの、インタビュー・アンケートでは改善すべき点もさまざま指摘された。今後、より詳細なニーズ把握と検証が求められる。

### 4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業

冒険遊び場づくりへの相談のほか、遊び場づくり団体、その他 NPO、行政、学校、研究者等から寄せられる各種相談に対応、必要に応じ具体的な支援も行なった。

- ・遊び場づくりへの協力依頼 → 事業5. (2)「宮城県を中心とした遊び場活動の支援」
- ・遊び場づくりの相談 柴田町太陽の村「冒険遊び場推進協議会」 ほか
- ・講師派遣 10/21(水) 岩手・宮城・福島 3 県連携復興センター協働企画シンポジウム「LINK」  
10/31(土) 南光台東子ども会育成会インリーダー研修 協力
- ・研究者・学生からのヒアリングへの対応 2 件 東北福祉大学社会福祉学科 ほか
- ・視察・見学受入れ等 10 件 若林区役所「WAK 事業 東日本大震災から学ぶ」 ほか
- ・小学校の授業協力 10/30(金) 仙台市立七郷小学校 6 年生総合学習「未来のまちづくり」受入

### 5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業

#### (1) 若林区を中心とした、プレーカーを活用しての遊び場の運営

指定管理者として運営する海岸公園冒険広場と連携する形で、巡回型の遊び場を運営しているが、本年度は「東六郷であそぼう」のみ通年で開催した。(→事業8. 参照)

## (2) 宮城県を中心とした遊び場活動の支援

県内各地で始まっている遊び場づくりの取り組みを支援するため、プレーリーダー等を派遣しているが、2020年度は以下2件に留まった。その他、事業8. で実施してきている巡回型の遊び場についても、「地域の運営主体を支援する」形を目指して支援に取り組んできているが、本年度は、実際に遊び場活動の実施に至るものはなかった。

○ドリーム幼稚園父母会 8/4(火) 園庭での遊び場開催支援

○大和町教育委員会 11/15(日)「遊び場どうじょ！」(吉田教育ふれあいセンターにて) 開催支援

## (3) 乳幼児の遊びの広場「ちびひろ」 9/3 9/17 2回12人 【ファンドクリエーション基金事業】

乳幼児親子を対象にした五感で自然を感じるプログラムを、海岸公園冒険広場をフィールドにスタートした。計4回の予定の前半は中止となったが、9月に実施し好評を得た。

## (4) FEEL Sendai Web 環境学習コンテンツ用素材作成業務

例年実施している杜の都の市民環境教育・学習推進会議 (FEEL Sendai) 環境学習プログラム「いろ色発見隊～季節のカメラマン」の実践は、本年度はコロナ禍で中止となった。しかし、FEEL Sendai ホームページ用の「学習動画」を作成の業務を受託、これまでの実践をまとめた。

## 6. プレーリーダーの養成に係る事業

コロナ禍で遊び場活動も多くが中止になる中、本年度は対外的な講座・研修等の実施はなく、海岸公園冒険広場のスタッフ研修のみの実施となった。

実施日	内容	講師	実施枠組等	対象
2020/6/12	シェイクアウト訓練 津波避難誘導訓練	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
7/21	プレーリーダーの動き方と連携について考える	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
8/25	個人情報保護・情報セキュリティについて	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
8/25	木工作スペースの見守り方について (ケーススタディ)	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
10/27	海岸公園冒険広場の設置目的・運営方針について	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
10/27	防災あずまや設営訓練	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
11/24	新型コロナウイルス対策の新たな指標について	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
2020/3/10	防災あずまや設営訓練	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
3/23	建築物自主点検研修	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ

## 7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業

仙台市の策定する基本計画や分野別計画のパブリックコメント手続きに合わせ、遊び環境づくりについての意見を提出した。

### ・仙台市「みどりの基本計画」

昨年度策定の「すこやか子育てプラン」でも、「遊びの環境づくり」が位置づく中、本計画での市作成の中間案の時点で「プレーパークの拡充」の記述が入ったが、内容の充実のための意見を提出し、多くが反映された。

## 8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業

### (1) 海岸公園冒険広場の運営 【仙台市指定管理業務】

週6日開園（毎週火曜日休園） 来園者数：約16.4万人(2020.4~2021.3)

前年度のアクセス路（かさ上げ道路）開通を受け、年間を通して大きく利用が増えることが予想されていた2020年度だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を色濃く受ける形的一年となった。

公園利用者数は、2020年4~5月にデイキャンプ場の利用休止・駐車場台数制限により大きく減少したが、緊急事態宣言が解除された5月下旬以降は増加に転じ、6月以降も満車時の臨時駐車場の台数制限や遊具・道具貸出等の一部制限は継続したものの、通年で過去2年並みないしは上回る来園者を迎えた。結果的には、小幅ではあるが前年度を上回る

その結果、来園者数は再開後3年間で最多となっている。コロナ禍の影響で「多くの人が集まる公園を避ける」人たちがいた一方で、屋内よりもリスクの低い屋外で遊ぶことを選ぶ人たちの来園は増えたとみられる。デイキャンプ場も、閉鎖期間を除けば過去最大の利用となった。

コロナ禍でなにかと制約の多い一年間となったが、単に管理を強めるだけではなく、園内をひろびろと遊べるようにバス駐車をあそび場として開放したり、遊具以外の四季それぞれの魅力の発信・遊ぶきっかけづくりをしたり…という工夫を行なった。自主事業についても、「密」にならない工夫をしながら少しずつ再開していった。

再開後の重要な役割である震災伝承・防災についても、継続して取り組んだ。「震災10年」に合わせた発信の機会がコロナ禍で大幅に制約を受けたが、ホームページでの発信の強化、展示・掲示の充実、学校の教育活動への協力等、できることから取り組んだ。

### (2) 冒険広場周辺地域および岩沼市で開催する遊び場

海岸公園冒険広場周辺の被災地域中心に、公園再開後も続けてきた巡回型の各あそび場だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2020年3月以降、いったん全てを休止することとなった。「あそびを通して子どもの育ちを支える」、東日本大震災発生後「心のケア」に加え、屋外の利点を活かして人のつながり・コミュニティづくりの場としての役割を担うことも目指した取り組みだったが、不特定多数の人の接触を避けねばならない社会状況の中、再開を準備するたびに感染状況の再拡大で休止になる…ということを繰り返す結果となってしまった。

唯一継続的に活動を行えたのは、「ひろびろとした環境」を活かして実施する海岸公園冒険広場近くでの「東六郷であそぼう！」の活動だった。海岸公園と連携しながら、身近な自然や地域で遊ぶことを再認識してもらう提案につながる遊び場活動を行なった。

#### <若林区：七郷地域の遊び場>

七郷地域で実施する遊び場は、「荒井公共土地区画整理地区」内にある。同地区は、隣接する荒井東・荒井西・荒井南地区と共に、集団移転先も割り当てられた区画整理区域である。復興公営住宅も多く立地すると共に、地下鉄東西線開通などにより新市街地もひろがり住民は増加、2020年4月には学区が再編され新たに荒井小学校が開校した。新住民同士、新住民と旧住民、各校の児童同士など多様な交流の場が期待される地域で、七郷中央公園と下荒井公会堂、上荒井公会堂(支援)で活動を続けてきたが、本年度は「遊び場の開催」はできなかった。七郷中央公園については再開を目指して現地ヒアリングを継続し、子どもたちの気持ちを受け止める役割も果たした。

#### <若林区：六郷地域の遊び場>

若林区六郷東部地区（旧東六郷小学区周辺）で被災した人の多くは、仮設住宅の段階から、同じ六郷地域のやや内陸の場所（六郷小学校学区周辺）に仮住まいを設けていた。またその後、この周辺に移り住んだ人も多い。こうしたなか、移転先の地区での新たな関係づくりと、人口減少の激しい現地再建地域のこ

コミュニティ活性化などを視野に3ヶ所で遊び場活動を実施してきたが、2020年度は「東六郷であそぼう」のみの実施となった。

### ◎ 東六郷であそぼう（井土地区周辺）計5回のべ51人 【みやぎ地域復興支援助成金】

六郷東部の現地再建地域において、事業3.(1)「遊びの原風景」調査で地域の大人から聞いた子どもの頃の思い出の話をもとにした遊び場活動を実施した。コロナ禍のなかだったが、ひろびろした環境の中で今も地域に残る子どもの遊ぶ環境の魅力を再発見し伝えていくことの大切さを伝えることを目指した。

- ・9/5(土)「手作りの竹竿で釣りをしよう」参加者18名
- ・10/12(月)「田んぼにイナゴをさがしに行こう①」参加者10名
- ・10/21(水)「田んぼにイナゴをさがしに行こう②」参加者3名
- ・1/11(月)「氷で遊んでみよう①」参加者15名
- ・2/11(水)「氷で遊んでみよう②」参加者15名

### ＜仙台市宮城野区：田子西地域の遊び場＞ 【宮城県被災者支援総合交付金事業】

防災集団移転促進事業の移転先になっている田子西地区・同隣接地区の2ヶ所で活動を継続開催した。いずれも、町内会の交流を支援する形で、遊び場・交流サロン活動にNPO法人にじいろクレヨン(石巻)と連携して取り組んできたが、2020年度は遊び場活動の実施には至らなかった。ただし、田子西第二復興公営住宅ではクリスマス会の実施協力等、田子西二丁目公園では継続的な現地ヒアリングを実施した。

### ＜その他の遊び場＞

上記の他、若林小学校、青葉区片平地区の遊び場活動支援、岩沼市での「楽農村で遊ぼう」や里の杜あそび場開催支援等を継続的に行なってきたが、2020年度はいずれも活動の実施に至らなかった。

### (3)他団体が実施する企画の開催支援等

例年、海岸公園冒険広場や遊び場活動実施地域の町内会や、施設の行事等への協力を行なってきたが、2020年については、ほとんどが中止となり、下記事業のみの実施となった。

- わたしのふるさとプロジェクト「第4回 鎮魂の花火」 1/25(土)

### (4)遊び場づくりと連携する大人も集まれる「縁側倶楽部」等の支援活動の実施

【宮城県被災者支援総合交付金事業】

遊び場と連携した「ものづくり+お茶っこのみ(交流サロン)」を、復興公営住宅や集団移転先の集会所で継続的に実施し、大人が集うきっかけづくりを行なった。コロナ禍で企画→中止を繰り返し、結局年度内に2か所で各1回ずつの実施に留まった。

- ① 荒井東復興公営住宅集会所「荒井東縁側倶楽部」 2/8(月) 11人
- ② 久保田東町内会集会所「久保田東縁側倶楽部」 1/25(月) 13人

### (5)沿岸部の環境調査 6/21(日) 9/6(日) 10/18(日) 2/7(日) 5/9(日) 【みやぎ地域復興支援助成金】

様々な復旧工事の進む仙台市沿岸部において、生き物の回復状況を探り、その様子から被災地域の「再生」のあり方も考えていくことを目指し、季節ごとに海岸公園冒険広場や貞山堀など冒険広場の周辺を中心とした沿岸部の生き物を調査した。3月には、過去の生き物調査の報告書を作成した。

なお、5月の企画からは、再び「海岸公園冒険広場来園者と生き物を探る」形での実施とした。

### (6)「ふるさとの杜再生プロジェクト」沿岸部・みどりの再生活動に参画

「ふるさとの杜再生プロジェクト」は、仙台市・市民・NPO・企業等の力を結集し、海岸防災林をはじめとした東部沿岸地域のみどりの再生を図るプロジェクト。市民参加型で行っている。本年度は各種交流企画は減ったものの、以下の育樹会・植樹会を協働で行なった。

前年度に再開した海岸公園冒険広場でも、多くの植樹・育樹会を協働で実施した。

- ① 「ふるさとの杜再生プロジェクト」井土地区育樹会 7/25(土)

- ② 「ふるさとの杜再生プロジェクト」井土地区育樹会 10/3(土)
- ③ 「ひがろく桜プロジェクト」 植樹 2/26(金) 3/10(水) 3/16(木)

大津波にも耐えて生き残っていた旧東六郷小校庭の桜の樹勢が落ちたことを受け、その命をつなごうと専門家の皆さんの尽力のもと接ぎ木で育てられ農業園芸センターに仮植えされていた桜苗が、2月、東六郷小跡のコミュニティ広場整備地に里帰り植樹された。また同時に、六郷東部各町内および六郷中学校・六郷小学校にも苗木を贈呈し、植樹されることとなった。

#### (7) 「のびすく若林」の運営への参画

2017年秋・開館の親子ふれあいプラザ「のびすく若林」指定管理者の構成団体として運営。

週3日プレーリーダーを配置すると共に、隣接する若林区ふるさと広場を活用した外遊びの企画・実施をしてきた。2020年度は、コロナ禍のため事前申込・定員制での開館となり、3月の緊急事態宣言発令時は再び休館となるなどしたが、「屋内よりも屋外を」というニーズもあり、月3回実施していた「のびすくプレーパーク」「ふるさと広場をあそぼう」の館外活動を、より日常的に実施していくようになってきている。

2018年度に地域連携事業でスタートした「出前のびすく 子育てサロン」は、久保田東地区での開催は見送りとなり、六郷市民センターでの3回のみの実施となった。

## 9. 組織運営について

2016年度（2017年5月）に策定した中期計画で具体的な取り組みとして挙げた「⑩ 調査研究・政策提言や団体マネジメント力をつけるため、事務局体制を強化する。」に基づき、前年度より事務局体制の強化を検討してきたが、まず第一歩として理事の中から事務局長を選任し事務局運営にあたることとし、1月に副代表理事が着任することとなった。また4月からは、事業部門のスタッフ体制を見直して中長期的な事業展開に備えた。

一方、中長期ビジョンの全体的な検討次年度に向けた課題となっている。